

# 臨床推論演習 I

科目責任者 鈴木 圭 輔

学年・学期 4 学年・後期

## I. 前 文

4 学年の前期までに臨床科目の講義は全て終了している。後期は CBT 対策や 5 学年から開始される臨床実習の準備を行い、卒業試験、そして国家試験合格に向けて着実に力をつけていく時期である。“臨床参加型”実習を実現させるために、臨床推論演習 I では医学教育モデルコアカリキュラムの“臨床推論”に沿って、各分野における症状や病態について、病歴、診察、検査から鑑別診断を行って正確な診断につなげることを目標とする。各授業には実際の症例問題を例にして、分野によってはさらなる理解を深めるため統合型講義（基礎医学と臨床医学）も行う。学生が事前に予習がしやすいように講義計画表には関連する領域の実際の国家試験の問題番号を記載してある。この演習は 5 学年から始まる臨床実習や 6 学年の学習にも極めて有用なはずである。

## II. 担当教員

内科学（神経）	（鈴木 圭 輔）
内科学（血液・腫瘍）	（今 井 陽 一）
内科学（腎臓・高血圧）	（頼 建 光）
内科学（内分泌代謝）	（麻 生 好 正）
内科学（リウマチ・膠原病）	（池 田 啓）
精神神経医学	（古 郡 規 雄）
放射線医学	（曾 我 茂 義）
整形外科学	（種 市 洋）
泌尿器科学	（釜 井 隆 男）
耳鼻咽喉・頭頸部外科学	（中 山 次 久）
産科婦人科学	（三 橋 暁）（成 瀬 勝 彦）
救急・集中治療医学	（和 氣 晃 司）
リハビリテーション科学	（美津島 隆）
病理診断学	（石 田 和 之）
総合診療医学	（志 水 太 郎）
生理学	（神 作 憲 司）
薬理学	（藤 田 朋 恵）
熱帯病寄生虫病室	（川 合 覚）

## III. 一般学習目標

- （1）重要な疾患を持つ患者さんの問題点を分析し、解決する能力を得る。
- （2）臨床実習前に臨床推論演習を行う事により、臨床実習の効果を高める。
- （3）思考能力を高め、6 学年での国家試験を視野に入れた学習にスムーズに適応する。

## IV. 学修の到達目標

- （1）各コマで与えられた症状や病態について、問題点、病態生理、診断、治療などを理解する。
- （2）臨床実習に応用出来るように、理解の幅を広げる。
- （3）必須な知識の獲得のみならず、6 学年までこれらの能力を保持出来るようにする。

V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)

2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション

6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	7	10	水	6	運動麻痺・筋力低下 115-D-18, 117-A-38, 117-F-68, 117-F-69, 117-F-70	内科学(神経) 鈴木圭輔	1
2		10	水	7	頭痛 115-B-29, 115-B-44, 117-D-52	内科学(神経) 鈴木圭輔	1
3		11	木	1	認知機能障害 107-B-49, 107-B-50, 107-B-51, 113-A-25, 115-A-24	精神神経医学 川俣安史	1
4		11	木	3	腰背部痛 113-A-53, 114-C-69, 114-C-70, 114-C-71, 114-D-73, 115-D-73	放射線医学 熊澤真理子	1
5		11	木	4	運動麻痺・筋力低下 115-B-32, 115-E-35, 116-A-29, 116-B-25	生理学 福島央之	1
6		11	木	5	尿量・排尿の異常 111-B-41, 113-E-36, 115-A-26	内科学(内分泌代謝) 飯嶋寿江	1
7		11	木	6	感覚障害	内科学(神経) 国分則人	1
8		12	金	1	尿量・排尿の異常 115-A-36, 115-C-43, 117-D-73	泌尿器科学 木島敏樹	1
9		12	金	2	血尿 114-A-55, 116-F-53, 117-C-56	泌尿器科学 別納弘法	1
10		12	金	3	血尿 114-D-53, 115-D-63, 117-D-31	病理診断学 小野祐子	1
11		12	金	4	尿量・排尿の異常 113-A-43, 116-D-45, 116-A-40	薬理学 藤田朋恵	1
12		12	金	6	血尿 106-A-53, 107-A-39, 109-A-39, 109-I-73, 110-A-52	内科学(腎臓・高血圧) 里中弘志	1
13		16	火	4	頭痛 114-A-73, 115-B-48, 116-A-73, 117-E-49-50, 116-B-21	総合診療医学 勝倉真一	1
14		16	火	5	運動麻痺・筋力低下 115-D-48, 116-A-69, 117-D-42	リハビリテーション科学 入澤寛	1
15		17	水	1	腰背部痛, 感覚障害 115-D-37, 115-E-35, 116-F-35	整形外科 稲見聡	1
16		17	水	2	関節痛・関節腫脹 113-A-17, 114-F-43, 115-D-58	内科学(リウマチ・膠原病) 新井聡子	1
17		17	水	3	関節痛・関節腫脹 116-D-38, 116-D-74, 117-D-64	整形外科 富沢一生	1
18		17	水	4	歩行障害 115-C-47, 116-F-52, 117-E-34	整形外科 瓜田淳	1
19		17	水	5	リンパ節腫脹 110-D-52, 113-D-30, 114-A-43	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 深美悟	1
20		17	水	6	歩行障害	内科学(神経) 藤田裕明	1
21		18	木	1	リンパ節腫脹 114-A-60, 115-B-50, 116-F-58	内科学(血液・腫瘍) 今井陽一	1
22		18	木	2	腰背部痛 115-A-75, 115-D-45, 116-D-69	総合診療医学 坂本哲	1
23		18	木	3	発熱 110-E-55, 115-C-15, 117-D-45	熱帯病寄生虫病室 川合覚	1
24		19	金	2	認知機能障害 114-D-19, 115-D-57, 115-F-69	生理学 野元謙作	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
25	7	19	金	1	不安・抑うつ 113-F-67, 115-D-28, 117-B-37	精神神経医学 古 郡 規 雄	1
26		19	金	4	月経異常 113-D-47, 115-D-36, 115-F-37, 116-A-44	産科婦人科学 尾 林 聡	1
27		19	金	5	CS-02-02-02 腰背部痛 116-C-63, 116-C-64, 116-C-65	救急・集中治療医学 和 氣 晃 司	1

#### VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

定期試験（85%）、ミニテスト（5%）、出席状況（10%）の成績をもって評価する。

ただし総合的な判断により変更もありうる。

#### VII. 教科書・参考書・AV資料

- （1）今までに各科で指定した教科書および推薦図書。
- （2）Question Bank, Approach, 115, 116, 117回医師国家試験問題解説書。
- （3）国試115～117, 医学書院
- （4）イヤートート, メディックメディア

#### VIII. 質問への対応方法

随時、受け付ける。但し、事前に秘書を通じ、アポイントを取る。

## IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

## X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題（試験やレポートなど）については，提出され次第随時評価しフィードバックする。

## XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

求められる事前学習：各授業の症例問題を前もって必ず取り組むこと。（20分）

求められる事後学習：各授業の症例問題について配布資料で復習する。（15分）

## XII. コアカリ記号・番号

CS-02-02：臨床推論

CS-02-02-01 主要症候（表 5）について原因と病態生理を理解している。

CS-02-02-02 主要症候（表 5）について鑑別診断を検討し，診断の要点を説明できる。

CS-02-02-03 基本診療科（表 4）で主訴からの診断推論を組み立てられる。

CS-02-02-04 基本診療科（表 4）における疾患の病態や疫学を理解している。

3. 臨床推論（モデル・コア・カリキュラム表 5）（p192～193）

リンパ節腫脹

尿量・排尿の異常  
血尿  
月経異常  
不安・抑うつ  
認知機能障害  
頭痛  
運動麻痺・筋力低下  
歩行障害  
感覚障害  
腰背部痛  
関節痛・関節腫脹